

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームけあふる白樺	評価実施年月日	H21年11月30日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	H21年11月1日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>尊厳・自立・自由の理念の元に、地域の中でいかに生活していただけるかを考え、ケア、サービスに努めている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>日々、ユニットカンファレンス、ケアカンファの際に、良く理念について話し合っている。その話し合いの元に実践に向け取り組んでいる。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らしていることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>毎月のホーム便り、又、夏祭りやクリスマス会等には、ご家族様や、町内の方々にも声を掛け、参加していただき、理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>利用者様の外出(散歩)などでは、隣近所のお庭を見せていただいたり、又、町内の婦人会や、老人クラブの方々もホームに遊びに来ている。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>町内の行事にはなるべく参加するようにしている。又、町内の清掃などにも利用者様と一緒に参加している。</p>		
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>日々の利用者様のケアにとどまり、地域貢献には至っていない。</p>	○	<p>今後、運営推進委員会等を通し、地域の高齢者介護の状況を聞き、ホームから手助けできないことがないか、話し合いをと考えていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>評価の意義・目的を理解しながら課題への取り組みが行われている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議では、利用者様へのサービスの状況等について報告し、委員の方から色々な意見を出して頂き、ユニットで話し合い、サービス向上に努めている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市町村担当者と電話等でよく話し合い、サービスの質の向上に努めている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>理解が不十分だと思われる。</p>	○	勉強会等を開き、全職員が理解出来る様に努めたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待防止委員会を設け、ユニットカンファレンス等でよく話し合う機会を設け、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時は、ご家族様と良く話し合い、説明の時間を多く持ち、理解、納得をして頂いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情処理等については、速やかに対応し、改善策を話し合い、対応に努めている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月のホーム便りを郵送し、日々の生活の様子を知らせている。又、金銭に関しても定期的に報告している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が面会に来られた際、ご家族様からの、質問・意見・要望などを伺い、スタッフ間で共有している。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の申し送りや、カンファレンス等でスタッフ同士話し合う機会を設け、意見や提案は管理者を通して運営者に情報を話し、反映させていくよう努めている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	必要な時間帯に職員を配置できるよう勤務体系の調整を行っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動等があった際は、利用者様の精神的動揺等が最小限に抑えられるよう全職員がフォローにあたっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>資格を取る際などは、シフトを調整し、働きながら資格取得が出来る様に配慮している。又、研修などは、案内を掲示し、参加できる職員には参加してもらうようにしている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>管理者会議などで交流する機会があり情報交換している。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>年に何度か法人の別ホームとの親睦会等を行い、職員同士の交流などを通して、ストレスの軽減に努めている。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>職員個人が受けたい研修等があれば参加出来る様、推進している。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>ホーム内の雰囲気を見学していただき、生活していく上で疑問になる事や、不安に思うことを聞き、安心して生活して頂けるよう説明している。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>ホーム内の雰囲気を見学していただき、ご家族様等の不安や疑問が取り除けるよう説明している。又、グループホームとして出来る事と出来ないことをしっかりと説明している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者様やご家族様がどの様な介護サービスや安定した生活を希望しているのか良く聞き、柔軟な対応が出来る様、努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ホームの雰囲気慣れて頂くために、事前の見学など利用者様やご家族様と話し合いを深めて、納得していただいてから入居して頂いています。また、他の利用者様との会話もスムーズに出来る様、スタッフが間に入り、雰囲気づくりをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は1人1人の利用者様にしっかりと関わりを持ち、日常生活の一つ一つの生活を共にし、支えあう関係を作っている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様にも行事などに参加して頂き、一緒に楽しんだり、職員からもご家族様に日々の生活での提案をさせて頂いたり、ご家族様の協力の下、利用者様を支えて行く関係を築いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族様が来訪された際には、利用者様の日々頑張っていることや、希望している事などを話している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	ご家族様とのコミュニケーションが取れなくなり疎遠にならないように、近況報告や毎月の行事などの案内を送り、気軽にホームに来て頂けるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日々行っている体操や、レクリエーションなどで入居者様同士が交流できる場を提供し、職員も一緒に行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ホーム利用が終了した方や、そのご家族様から相談があった場合には、できる限りの対応をさせて頂くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの希望や意向を聞き、把握に努め、困難な場合は日々の生活からしっかりとアセスメントし、ケアカンファレンス等で話し合い、検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前情報や、ご家族様との話しの中で、利用者様の生活歴を聞き、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の生活の中から職員同士で情報交換しながら総合的に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行い、ケアの方向性の検討を行っている。又、朝夕の申し送りの際には、その日何があったかの申し送りを徹底している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	カンファレンスによって、長期・短期目標の実施状況を見直し、新たな課題等の現状に即した計画を作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子は個別に記録を記入し、朝・夕の申し送りで情報の共有をしている。その他に、連絡ノートや、気づきのノート等を利用し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者様やご家族様の要望に応じて、通院介助や散歩、買物等の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進委員会では、民生委員もメンバーになって頂いている。また、何度か地域のボランティアの方に来て頂いたり、外出行事でもボランティアの方に来て頂き、交流を図っている。年二回の消防訓練も実施している。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在は利用を希望している利用者様はいません。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて地域包括センターとの連絡を取っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	24時間対応の医療機関との連携、週1回の医師による往診や、訪問看護などの実施をしている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	毎月、職員付き添いで病院受診し、相談をしたりしている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	毎週1回訪問看護による問診やバイタルチェックを受けて、健康管理に努めている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者様が入院した際には、安心して生活して頂けるように、又、慣れたホームに早く帰ってこれるように、病院側と連絡を密にしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合の指針を入居時に本人様やご家族様に説明し、同意を得ている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	医師との連絡を密にして、利用者様がより良い生活をして頂けるよう、統一したケアが出来る様に支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>往診ドクター等との連携を図り、本人の精神状態の変化について話し合い、住み替えによるダメージを最小限に抑えるよう努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者様の個々を尊重し、言葉掛けや対応をしている。記録などの取り扱いにも十分注意し、保管場所も定めている。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>全ての利用者様に1つの対応・働きかけではなく、個々人の性格や、レベルに合わせた働きかけをし、自己決定力を引き出すように支援している。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>個人のペースに合わせた支援をしている。又、本人の習慣や希望を十分に傾聴・把握して対応している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理美容サービスは、2～3ヶ月に1回来てもらい、身だしなみが出来る様、支援している。本人の望む店に行きたいという訴えは聞かれていない。又、整髪・爪切りなどの支援は、日々実施している。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>調理は全般的に職員が行っているが、皮むき・殻むきや配膳等を手伝って頂いている。又、下膳は利用者様の役割として意識して下さっている様子で、進んで下膳されている。その他にも、食器洗い、片付けも手伝って下さり、日々の張り合いにもなっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居する前にタバコを吸っていた利用者様はいますが、ホームが禁煙のため、タバコは吸っていない。現在、タバコの訴えもない。飲み物やおやつは、利用者様の好みを聞いて提供している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄介助をしている利用者様に対しては、時間を決めて誘導したり、トイレで排泄して頂けるよう、腹部マッサージ等をして、排泄を促す支援をしている。介助している利用者様を例に上げると、失禁0にはなっていないが、トイレでの排泄回数は増えている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴介助をする利用者様については、曜日を決めて支援している。又、他の利用者様には、入浴希望された日に入ってもらえるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣を尊重して支援している。職員の都合に合わせて、早く寝ていただいたり、長い時間ベッドに臥床していただく等はしていない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	役割としては、食器洗いや、毎月のカレンダー作成をして頂いたり、壁に飾る季節の飾りやぬり絵などを提供し、楽しみながら過ごしている。また、あまり発語のなかった利用者様もかるたの読み手として発語を引き出すなど、利用者様の興味を持つ事で支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居時、ご家族様や利用者様と話し合い、当ホームで管理する場合には、その都度、出納帳をつけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買物や散歩等、積極的にお誘いし、気分転換が出来る様にしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	さくらんぼ狩りやお花見、初詣などもレクリエーションに取り入れたり、ご家族様と温泉等に行かれる利用者様もいる。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話はいつでもできる環境になっている。手紙は職員が預かったり、コンビニまで利用者様と一緒にいき、ポストに投函することもある。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも訪問でき、行事に参加して下さるご家族様もいる。又、居室でお話されるなど、ご家族様との時間も取って頂けている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会があり、日々の介護で抑制にならないような支援が出来る様努めている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関に鍵をかけず、外出したい利用者様には、職員が付き添い、散歩・外出等が出来る。又、窓も自由に開閉できる環境である。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	ホール・食堂には、一人ずつ職員がいるよう様、心がけ、車椅子の利用者様に関しては、車椅子から落ちないか等、姿勢も確認している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁やハサミ等は棚の上に置き、職員のいないところで刃物が持てない状態になっている。薬に関しても1袋ずつ日付を記入し、誤薬の無いよう努めている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	食品は利用者様に合わせて刻んで提供する。薬は、セット後、別の職員が再度確認し、薬を渡す職員も確認し、誤薬の無いようにしている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時対応マニュアルがあり、いつでも目を通すことが出来る状態になっていることや、全職員が救急救命講習を受けており、急変や事故発生時に備えている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年二回の避難訓練は必ず実施しているが、地域の方への働きかけは出来ていない。	○	地域の方にも避難訓練に参加して頂けるよう働きかけていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	9名の利用者様と職員がいる共同生活のため、必ずしも穏やかな生活環境とは言えず、対人関係などで抑圧を受ける可能性はありますが、職員もその事には十分注意しながら、日々の支援をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の変化や特変などは、速やかに申し送りの際、話し合い、相談している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方薬は職員が1回ごとに分け、毎食後、服薬して頂いている。処方箋の情報は、処方箋の入っている袋と一緒に入っており、いつでも見られるようになっている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎朝の体操や、天気の良い日は散歩に出掛けられるよう声かけを行い、室内でも運動される利用者様は、卓球などをして楽しんで頂いている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	自立されている利用者様は、声掛け、見守りさせて頂き、介助が必要な利用者様は毎食後介助させて頂いている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分・排泄チェック表や温度表を確認し、排便の無い利用者様には薬を処方する等し、水分確保が難しい利用者様には、フルーツやアイスなど、好みに合わせた方法で少しでも水分摂取が出来る様に努めている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員は出勤時、手洗い・イソジンでのうがい、アルコール消毒を必ず行い、来訪者の方にもアルコール消毒をして頂けるようお願いしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理時必ず換気し、買ってきた食材もすぐに冷蔵庫・冷凍庫にしまい、台所の見やすいところに食品の管理や消毒の仕方などが書かれてあり、職員は衛生で安全な調理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関には花やイラストがあり、来訪者の方には、インフルエンザなどの感染防止のため、アルコール消毒して頂けるよう努めている。		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	季節感が出せるように共有スペースには季節感の出る飾りを付ける等の工夫をしている。		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	共有空間で利用者様同士がトラブルにならない様、共有空間での一人ひとりの居場所を常に把握し、心がけ等を行っている。		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	それぞれの利用者様の居室には、ご本人やご家族様の写真が貼られていたり、布団や椅子なども本人所有の物を使って頂いてる。		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	調理時は必ず換気し、室温についても利用者様にその都度聞き、必要に応じて冷暖房を行っている。また、加湿器も随時使用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	建物内部には手すりを設置し、床はバリアフリー化してあります。車椅子利用の利用者様でも、自走には問題ないように床に物を置かないよう努めています。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりの利用者様を理解し、出来る事を見極め、見守りながら支援している。また、失敗した時もしっかりと個人を尊重し、やる気を失わないようサポートしている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭にベンチやテーブルがあり、暖かい日には、外で昼食を食べたり、また、夏祭りなどの行事でも、建物の外回りを活用して楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 アセスメントをし、プランに繋げている。  アセスメントし、プランに繋げている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある 風景を見たり、テレビを見ながらお茶を飲んだりする時間や、それぞれが好きな遊び等を提供し、コミュニケーションを取っている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 他の利用者様や、職員と会をしたり、自室にてプライベートな時間を過ごされており、決して無理はさせず、一人一人のペースを大事に支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 自身の出来ることを活かしたレクリエーションやお手伝いをさせていただき、喜びを感じている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	②利用者の2/3くらい 散歩へお誘いしたりレクリエーションでは希望を聞き、出来る限り希望に沿うように努めている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 病院へ受診や、週一回の医師・看護師の往診を受けている。また、24時間対応の医療機関と連携している。日常生活でも毎朝、職員がバイタルチェックをしている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 不穏時は不安や心配事を真剣に聞き、受け止め、対応している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	②家族の2/3くらい 面会時にご家族様とお話し、信頼関係を作っている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	②数日に1回程度 ご家族様が来られ、利用者様や職員とコミュニケーションを取っている。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>②少しずつ増えている 町内の婦人会の方々や、老人クラブの方々の訪問があったり、行事等では、ボランティアの方々にも参加して頂き、繋がりを少しずつ広げている。</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が 職員全員、利用者様が楽しく過ごして頂けるよう努め、笑顔で元気に接している。</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が 利用者様から毎日笑顔を見せられている。</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>②家族等の2/3くらいが 喜びの言葉を頂き、ホームに協力して下さることもある。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

利用者様の中には、介護度が高く車椅子の利用者様で介助が必要な方も居られるが、出来る限り外出行事等は全員で行うようにしていることや、夏祭りやクリスマスなどの大きな行事では、3ユニット合同で行い、いつもとは違う利用者様との交流も大切にしています。また、職員に関しても週3日、食事担当の職員を配置し、日勤帯の職員数も十分に確保する事で、ゆとりを持った安全な介護を実践しています。